

部活動廃止案

—総合型地域スポーツクラブの発展を目指して—

早稲田大学 武藤研究室 B

○吉野 翔太 坂賢 弥 関 秀優 中村 慎吾 山崎 海

1. はじめに

私たちが、この部活動廃止案というテーマを選んだ理由としてメンバーが中学生、高校生 のときに実際に体験した経験が背景にある。すなわち、「自分が本当にやりたいスポーツ がたまたま部活動として無かった」、「指導者に恵まれなかった」、「人数不足のために満足 な活動が行えなかった」といったことである。また昨今の部活動には、社会的な問題がいくつ かある。体罰問題、教師にかかる過度な負担などである。従わなければ、体罰によっ て生徒を従わせるといった古い間違っ た価値観に捕われている指導者があまりにも多い。 ニュースでも多々、報道されているが体罰により生徒が自殺してしまったという悲惨な事 件もある。教師は給料とは全く関係ないボランティアで部活動を指導しなければならない ため、指導に熱意を持った教師ならばよいが、そうでない教師にとっては非常に大きなス トレスとなっている。そのような理由から今回、部活動を廃止し全国規模でクラブスポー ツに移行したらどうであろうかという考えに至った。

本論は、現状の部活動の問題点を浮き彫りにし、その上でそれらの問題点を解決する手 段として、部活動を総合型地域スポーツクラブに代替できるのではないかとの具体案を検 討したものである。

2. 研究の方法

文部科学省が公表した調査結果（資料名は参考文献に示す。本稿の表はすべてこの資料 による）の分析

3. 研究結果と考察・提言

(1) 結果の概要

ア. 全国の中高生の部活動の加入率をみたところ、中学生 73.9%高校生 49.0%であった。 その一方で地域のスポーツクラブへの加入率をみたところ、中学生 7.7%高校生 4.2%とい う結果であった。このことから、中高生がスポーツ活動に従事する際、大半が部活動を活 用しておりスポーツクラブを利用している学生は全体の1割にも満たないごく少数である ということが判明した。つまり、日本は部活動という文化が学生のスポーツを支えている ということである。

イ. 顧問の就任状況をみたところ、中学校で顧問として指導している教員は 62.1%、高校 で顧問として指導している教員は 53.4%であった。つまり、約半数以上の教師が放課後、 部活動の指導を行っているという実態が判明した。

ウ. 部活動の問題点のアンケート調査をみたところ、生徒側をみると問題点が特にないと答えたのは中学校 33.4%、高校 24.3%と低い数値であった。問題としては活動時間が長い、指導者の指導力不足、活動場所が狭いというのが主な理由であった。次に、教員側をみると問題点が特にないと答えたのは中学校 4.1%高校 6.2%とどちらも 1 割未満という非常に低い数値であった。問題としては生徒側と同じく活動時間が長い、指導者の指導力不足、活動場所が狭いという理由が上位にあたった。このことから、生徒、教師どちらも現状の部活動には容易に解決することができない不満を抱えていることが分かった。

エ. 校長の悩み、つまり部活動という活動を支える学校という母体の経営者の悩みをアンケート調査したところ、指導者の負担加重、指導者の不足というものが約半数の校長が抱える悩みであることがわかった。

(2) まとめ

ア. 上記の研究結果から指導を受ける生徒、指導を行う教師、学校という母体の管理者である校長のいずれも部活動の現状に問題を感じていることがわかった。

イ. スポーツ実施を地域スポーツクラブにまとめることで、指導者不足および指導力不足、教員の負担といった問題を解消することができる。

ウ. 人数不足や環境の不備によって、今まで部活動として存在できなかったマイナースポーツなどの競技を行うことができ、青少年の競技選択の幅が広がる。

エ. 学校単位の閉鎖された環境ではなく第三者のいる環境にすることで、体罰問題の解消に繋がる。

オ. 地域スポーツクラブはアスリートのセカンドキャリアの受け皿となり、質の高い指導も可能となる。

(3) 提言

ア. 官民共同の非営利団体としてのクラブを設立する。

イ. 施設については、極力既存の学校ないし公共の体育館等の既存施設を使用し、よりその地域の人々が集まりやすい場所を選定する。

ウ. 各地域の特色を活かし、スポーツ振興を積極的に行っている NPBL や J リーグ等地域ごとのプロスポーツチームや大学、企業と連携し、施設や人的・経済的援助を受ける。

表 1. 全国の中高生の運動部加入率

	中学生			高校生		
	全体	男子	女子	全体	男子	女子
運動部に所属している者	73.9%	83.0%	64.1%	49.0%	56.3%	41.1%
地域のスポーツクラブ等に所属している者	7.7	10.2	5.0	4.2	5.7	2.6
文化部など運動部以外の部に所属している者	17.1	7.9	27.1	22.0	13.8	30.9
学校以外の文化的教室等に所属している者	7.0	3.9	10.4	3.1	1.4	5.0
どれにも所属していない者	7.8	7.6	8.2	27.3	28.1	26.6

表2 顧問の就任状況（中学校教員）

	中学校					
	全 体	25歳未満	25～ 35歳未満	35～ 45歳未満	45～ 55歳未満	55歳以上
顧問として 指導して いる	62.1%	75.6%	74.2%	63.7%	37.5%	27.6%
指導して いない	37.9	24.4	25.8	36.3	62.5	72.4

表3 顧問の就任状況（高等学校教員）

	高等学校					
	全 体	25歳未満	25～ 35歳未満	35～ 45歳未満	45～ 55歳未満	55歳以上
顧問として 指導して いる	53.4%	54.5%	64.0%	57.5%	45.9%	33.9%
指導して いない	46.6	45.5	36.0	42.5	54.1	66.1

表4 運動部活動の問題点

	中学校			高等学校		
	生徒	保護者	教員	生徒	保護者	教員
特になし	33.4%	21.5%	4.1%	24.3%	22.6%	6.2%
活動時間が多すぎる	13.0	16.8	20.2	13.8	19.7	25.2
指導者の指導力の不足	8.9	16.1	18.3	13.3	15.0	16.2
活動場所がせまい	14.8	12.2	18.8	11.9	6.8	14.3
生徒同士の人間関係	11.8	15.0	13.6	11.9	11.4	7.6
指導者の意識の過熱など	3.3	3.0	6.6	7.0	4.5	5.8
費用がかかりすぎる	2.2	3.8	1.7	5.7	6.1	6.6
活動時間が少なすぎる	3.8	2.4	4.0	2.8	3.0	5.5
練習内容が厳しすぎる	4.5	1.5	0.5	5.1	2.8	1.3
保護者の無理解	0.9	0.9	4.0	2.3	1.2	1.5
保護者の期待の過熱	0.5	2.2	2.6	0.6	2.0	1.6
練習内容が易しすぎる	1.5	1.1	0.0	1.0	0.6	0.4
その他	3.0	4.6	10.1	4.2	5.1	11.5

表5 校長の悩み

	中学校	高等学校
指導者の負担加重	56.0%	43.4%
指導者の不足	42.0	45.5
施設・設備等の不備・不足	28.0	31.3
入部者の減少	12.0	26.3
予算の不足	21.0	15.2
指導者の指導力の不足	17.0	18.2
保護者の期待が過熱	4.0	1.0
生徒の塾(習い事)との関連	3.0	1.0
保護者の無理解	2.0	2.0
指導者の意識の過熱など	2.0	1.0
特にない	0.0	2.0

<参考文献>

文部科学省 運動部活動の在り方に関する調査研究報告（中学生・高校生のスポーツ活動に関する調査研究協力者会議）

http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/sports/001/toushin/971201.htm